

顔学オンラインサロン報告 第38回～第40回

顔学オンラインサロンは、イブニングセミナーの開催されない月にzoom方式により継続しています。

○第38回 2022年8月2日(火)
話 題：フォーラム顔学2022の見どころ！聴きどころ！
話題提供者：香川大学創造工学部講師・フォーラム顔学
2022実行委員長 林 純一郎 氏

○第39回 2022年9月6日(火)
話 題：顔と魅力／魅力判断における視覚情報の統合
話題提供者：花王株式会社・感覚科学研究所
三枝 千尋 氏

○第40回 2022年11月1日(木)
話 題：絵に描かれた顔に見られる暗喩
話題提供者：東京藝術大学美術学部教授
木津 文哉 氏

フォーラム顔学の前後に「瀬戸内国際芸術祭2022」も開催されており、フォーラムの見どころや、四国の魅力についてガイドいただいた。

私たちは一瞬のうちに人の顔から様々な情報を読み取っている。化粧と魅力、顔を見る時間との関係、魅力の共通性と多様性など、様々な顔の魅力についての研究知見を解説いただいた。

画家という立場から、ファインアートの自画像や人物像のみならず、イラストやアニメの顔表現、カウンターカルチャーの分野、アクションフィギュアまで含めて極めて多岐にわたる描かれた顔についてお話いただいた。(城戸崎 雅崇)

2022年度総会報告

初の対面とオンラインのハイブリッド形式での開催となったフォーラム顔学2022の1日目、9月17日(土)に2022年度日本顔学会総会が行われました(於：香川大学林町キャンパス総合研究棟 6201講義室)。

総会は日本顔学会会長の菅沼さんの開会あいさつで幕を開けました。はじめに、菅沼さんより会員数、入退会状況等の会勢報告および2021年度の活動報告が行われました。つづいて、会計担当理事の金子さんから2021年度の決算報告として一般会計および特別会計(フォーラム顔学2021)の説明が行われたのち、監事の武川さんより会計が適正に処理されている旨の会計監査報告がありました。2021年度の決算報告は、参加いただいた皆様の多数の拍手により承認されました。

つぎに、菅沼さんから2022～2023年度の役員および評議員の構成、ならびに2022年からの学会誌編集委員会、ニュースレター編集委員の構成についての報告が行われました。さらに、本年度の活動報告として、開催中のフォーラム顔学2022の概況のほか、顔学オンラインサロン、学会誌およびニュースレター発行などの定常的活動の報告につづき、学会

公認サークルの若手交流会および美人画研究会の活動内容が紹介されました。

そのあと、菅沼さんから来年度開催のフォーラム顔学2023(筑波大学、つくばカピオ[予定、茨城県つくば市])を含む、学会活性化を目指した2023年度の活動計画、および運営経費の赤字解消と会員サービスの向上を目的とした学会誌・ニュースレター電子化の方針が提議されました。最後に金子さんより、特別会計を一般会計へ統合して一本化し、学会誌等の電子化を組入れて立案された2022年度の一般会計予算案が提示されました。これらの提案はご参加の皆様の満場の拍手によって承認され、今年度の日本顔学会総会は予定された議事を滞りなく終了しました。

おわりに、日本顔学会の活動が会員の皆様の年会費によって支えられていることをあらためてご案内し、新規会員勧誘を含めた顔学会活動へのご協力をお願いして2022年度の総会は閉会となりました。

2023年度もどうぞよろしくお願いいたします。
(総務担当理事 今井 健雄)

編集委員会だより

1995年の創刊準備号より約27年間、印刷物としてニュースレターをお届けしてまいりました。毎回、封筒を開けて最新号のニュースレターを取り出すことを楽しみにされていた方もいらっしゃるかと思います。経費削減のため、今回の第80号をもって印刷版のお届けは最後となりますが、今後は電子版のニュースレターで引き続きお楽しみください(顔学会

のホームページから閲覧できます)。
なお、電子版は、A3両面印刷の後、半分に折ることで、これまでの印刷版と同様の形式で楽しんでいただくことが可能です。ときには、このような「印刷版」としてニュースレターを楽しんでいただくのもオススメです。

(ニュースレター編集長 中洲 俊信)



発行：日本顔学会 © 編集・製作：日本顔学会 J-FACE 編集委員会 日本顔学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 バルスサイドビル 9F 株式会社毎日学術フォーラム内 TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
発行日：2022年12月20日 *無断転載を禁じます。

J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニュースレター 80号

20 DECEMBER 2022 Vol.80 <https://www.jface.jp>

Contents

P1～2. 第27回日本顔学会大会(フォーラム顔学2022)開催報告／図書紹介
P3. 第59回イブニングセミナー／若手交流会報告 第25回、第26回
P4. 顔学オンラインサロン報告 第38回～第40回／2022年度総会報告／編集委員会だより

第27回日本顔学会大会(フォーラム顔学2022)開催報告

フォーラム顔学2022は、2019年北海道情報大学での開催以降数年ぶりにオンサイト開催をメインとしたハイブリッドにて開催致しました。開催日は9月17日(土)、18日(日)で、香川大学林町キャンパスにて開催致しました。当初開場予定としていた定員266名収容教室の空調施設が8月の落雷で故障したため定員150名収容教室へ変更し、かつコロナ禍対応のため教室定員を試験定員に絞って参加登録を受けましたが、参加者数はオンサイト99名、オンライン48名の計147名に上り、活発な議論が交わされる大会となりました。



開会式

大会長・実行委員長の林による開会宣言、菅沼薫会長からの挨拶で大会がスタートしました。コロナ禍に加えて台風の接近による交通への影響が懸念される冷や冷やもののスタートでした。



口頭発表

口頭発表は23件(5セッション)の発表があり、興味深い研究発表と活発な議論がおこなわれました。発表23件のうち、当初は1件オンライン発表予定でしたが、台風による移動の影響から、結果的に4件オンライン発表となりました。コロナ禍対応としてのZoom meetingによるオンライン発表準備が役に立ちました。



同様結果的に2件オンライン発表となり、ポスター会場に設置したZoom meeting専用端末からブレイクアウトルームへ入室しての発表・聴講となりました。また、オンライン聴講者向けに、学生スタッフによるロケ隊がポスター会場を回ってナレーションおよび配信し盛り上がりしました。

作品展示・企業展示

作品展示は4件、企業展示は1件ありました。ポスター発表と同じ会場にしたため、熱気あふれる議論で室温が高くなり、急遽空調機設定温度





を下げる対策を行いました。空調機の故障した会場から変更したかがありました。

■特別講演

1日目には、香川大学創造工学部教授・大学博物館館長の寺林優先生に、「四国の岩石の顔であるサヌカイトについて」と題してご講演いただきました。古くから「カンカン石」と呼ばれて親しまれてきたサヌカイトは瀬戸内火山岩類を代表する、まさに「四国の岩石の顔」であり、また「鎌倉殿の13人」にも登場した「屋島」も交えてお話いただきました。実行委員長が座長をつとめました。菅沼会長と寺林先生が同郷であることをご紹介しそびれてしまいました。

2日目には、新学術領域『顔身体学』特別企画シンポジウム「マスク顔の今後の影響」と題して、山口真美先生、河原純一郎先生、山中七菜子さん、小林恵先生、宮崎由樹先生からご講演いただきました。「マスク着用顔」の魅力比較や乳幼児の発達への影響、



透明なマスクの効果などについてお話しいただき、コロナ禍以前から始まった顔身体学ならではのご講演でした。

■イブニングシンポジウム

次回大会長の鈴木健嗣先生から、日程や会場、テーマのご紹介がありました。本来であれば瀬戸内の海鮮を堪能いただきながら、おもてなし文化の香川県を満喫いただきながら、としたかったところですが、コロナ禍対応のためオンサイト



の方のみによる30分程度の雑談時間となりました。それでも久しぶりに顔と顔とが再会し、夜の街へ散って行かれたと予想しております。

■原島賞・輿水賞

原島賞はマスクの明度と目の関係を明らかにした成里紗さんの「マスクの明度が目の形状知覚に及ぼす影響」、輿水賞は画像上でメイクと被写体の質感を表現する帯金駿さんの「自由な表現と被写体の質感を維持するメイク生成モデルの開発」へ贈られました。



■オーディエンス賞

2020年に創設された参加者投票によるオーディエンス賞として、口頭発表部門では橋本憲一郎さんの「似顔絵を科学するⅢー似顔絵の平均化と逸脱誇張の効果ー」、ポスター発表・作品展示部門では白濱帆夏さんの「こどもに感情が伝わりやすい表情とは？ー曖昧表情を用いた実験による検討ー」が受賞されました。原島賞・輿水賞と同程度の副賞を、とは叶いませんでしたが、原島賞・輿水賞と同じく讃岐に関係する副賞を大会長からお贈りしました。



■閉会式

大会長・実行委員長の林による閉会の挨拶により、本大会はお開きとなりました。が台風による航空機欠航や瀬戸大橋線運休などのため、会期後数日香川へご滞在頂いた方がチラホラいらっしゃいました。次回大会ではそのお詫びも含めて皆様とお会い出来ればと期待しております。

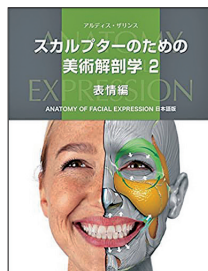
(フォーラム顔学2022 大会長・実行委員長 林 純一郎)

図書紹介



世界の仮面文化事典
吉田恵司編者代表：国立民族学博物館特別協力

ISBN-10：4621306847
ISBN-13：978-4621306840
発売：2022年5月
定価：18,000円(本体)
発行所：丸善出版



スカルプターのための美術解剖学2
表情編 (Anatomy of Facial Expression 日本語版)
アルディス・ザリンス著；加藤諒編集

ISBN-10：4862463932
ISBN-13：978-4862463937
発売：2017年8月
定価：7,000円(本体)
発行所：ポーンデジタル

第59回イブニングセミナー

2020年2月の第58回から2年半以上が経過し、ようやく第59回イブニングセミナーがリアル開催できることになりました。

テーマ：顔法への招待

講師：インディアナ大学名誉教授 押田 良機 氏

開催日：2022年10月11日

場所：アットビジネスセンター・池袋別館

「顔法」とは、MITの統計数学者チェノフが1973年に開発した、多変量データを人の正面顔の線描(正面顔の輪郭、眉、目、鼻、口など)として表現するというユニークな方法である。メッセージ性を持つ多変数情報データを(顔によって)同時に可視化しようとする。

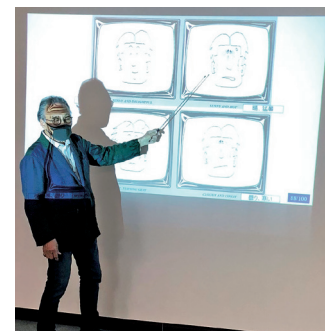
多変量データの表示にはスタープロット法などがあるが、チェノフの「顔法」はユニークで、ショッピングセンターの属性、都市の気候特性、ワインの味評価、矯正歯科の治療前後、身体の痛みの度合い、入試成績などさまざまな場面でテストされ活用されている。

押田氏は、チェノフの左右対象の正面顔に対して、もっと

自由なリアリティを求められないか、アニメなども使ってエンターテインメント性を付与できないかと「プレ・デザインド」な「顔法」を提案し、気象と人の健康(疾病)の関係や、工場事故などの多変量解析を、チェノフを超えた「顔法」で示すことを試みてきた。情報項目の取捨選択、どれをどの部位に当てはめるかなどは創造性に委ねられている。

今回のセミナーでは多彩な「顔法」について詳細、具体的、興味深いご紹介を頂いた。(城戸崎 雅崇)

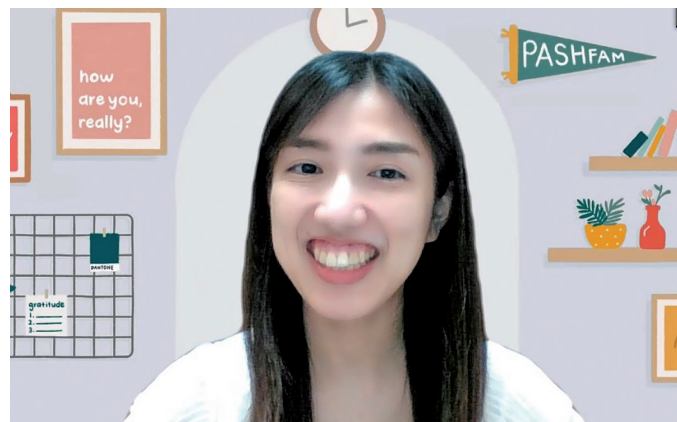
<押田先生から一言>「データにも表情がある」との原島先生の総評は至言であった。



若手交流会報告 第25回、第26回

■第25回若手交流会報告

若手交流会第25回の定期交流会は2021年8月28日オンラインにて開催されました。今回は立命館大学の光廣可奈子さんを講師として招待し、「顔の美しさ・好ましさ・魅力評価の違い」という講演でした。この背景には、美しさ、好ましさと魅力の三者が混同して評価されがちである中で、美しい人は良い人というステレオタイプが潜んでおり、それに対



し三者を同じ基準と見做して良いのかに対する光廣さんの疑問がありました。光廣さんは顔写真に対する評価及びそれに影響を与える顔特徴の選択実験を通して、異なる評価基準に対する認知過程と顔情報の処理が違っていることを明らかにしました。得られた主要な知見は以下でまとめました。まず、美しさに対しては、顔全体の情報に基づいて短時間で評価され、評価結果の個人差が少ないです。この過程は、顔の形態的特徴の影響を受けやすい知覚的処理と言えます。一方で、好ましさや魅力の評価を行う際には、顔の部分的情報を熟慮するため、個人差が比較的大きいです。この認知過程は顔の形態的特徴以外の影響も受ける認知的処理です。講演後にグループに分けられ、活発な議論が交わされていました。例えば、評価基準の個人差や、文化による影響、顔写真の刺激時間、それぞれの認知処理パターンを選択する詳細な条件など、興味深い交流が展開されました。どちらの話題も時間いっぱいまで尽きず、あっという間で時間となりましたが、お陰で今日も研究の魅力を体験できる有意義な日でした。

■第26回若手交流会報告

第26回の定期交流会は2021年12月26日に「若手交流会10周年year・それぞれの歩み」というテーマでオンラインにて開催されました。コロナ禍が収まらない中ではありますが、当交流会は2022年11月24日で設立10周年に突入することとなりました。多くの方に支えられてここまで活動を続けてこられたことを心よりお礼申し上げます。今回は特別会ということで、忘年会を兼ねて参加者の交流主体の会を開催しました。普段のような講演がない代わりに、参加者それぞれがこの10年間の活動内容などについて紹介しつつ、和気あいあいと交流をお楽しみいただきました。(劉 沫好)

